

## 組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 三朝医療センター

組織目標		達成状況(成果)
（下記2項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。）		
教育	<p>① 高齢者・地域・在宅医療を担う人材育成、およびそれに関する臨床研究：高齢者・地域・在宅医療を実践するとともに、種々の問題点を抽出し、臨床研究を行う。さらに、総合的ケアおよびプライマリ・ケアに習熟した、超高齢化社会に対応できる医師および医療従事者を、引き続き育成する。</p> <p>② 放射線健康科学に基づいた医療を担う人材育成：独立行政法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターおよび大学院保健学研究科との共同研究として、ラドンを含む低線量放射線の生体影響・医療応用に関する研究を継続する。その結果に基づき、低線量放射線環境安全・安心工学研究教育において、大学院博士前期・後期課程および原子力教育大学連携ネットワークに参画し、当該分野に精通した技術者・研究者・医療従事者を育成する。</p> <p>③ 温泉療法の有効性に関するエビデンスの確立と温泉医療に習熟した医療人の育成：慢性呼吸器疾患（特にステロイド依存性重症難治性喘息およびCOPD）、運動器疾患（特に高齢者骨折手術後の回復期）などを対象疾患として、温泉療法の有効性に関する研究を継続する。その成果に基づき、包括的・全人格的医療のできる人材を育成する。</p>	<p>① 高齢者・地域・在宅医療を担う人材育成、およびそれに関する臨床研究：地域医療に関する臨床研究を進めるとともに、卒後臨床研修医1名を受け入れ教育を行った。</p> <p>② 放射線健康科学に基づいた医療を担う人材育成：ラドン効果研究を継続し、その成果を学会・論文に発表している。平成22年度原子力連携教育大学ネットワークの集中講義に参画し、大学院生の施設見学を受け入れた。</p> <p>③ 温泉療法の有効性に関するエビデンスの確立と温泉医療に習熟した医療人の育成：理学療法士・看護師・学生に対して、温泉療法についての教育を行うとともに、臨床研究を実施し、学会発表・論文発表を各1回ずつ行った。</p>
	達成度：	4    ③    2    1
社会貢献・診療	<p>① 鳥取県中部地域において、老年期疾患（呼吸器疾患、消化器疾患、骨・関節疾患、生活習慣病など）を対象とした地域医療を引き続き展開する。</p> <p>② 岡山大学病院を始めとした遠隔地の病院と連携すること（広域連携）によって、慢性呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息など）の温泉療法を、従来の治療で効果不十分な症例に対して実施するとともに、その有効性を確立する。</p> <p>③ 鳥取市立病院などと連携（病病連携）することによって、運動器疾患（特に、高齢者高齢者骨折手術後の回復期）の患者を受け入れ、効率のよいリハビリテーション治療を実施する。</p> <p>④ 地域医療の一環としての在宅医療・緩和医療をさらに充実する。</p> <p>⑤ 温泉医療の多面的利用促進とともに、その運営形態も一部NPO/民間企業などが関わるなど、よりオープンで地域密着型の大学施設に転換する。即ち、地方自治体、観光業者、旅館・ホテル業者などの協力体制の基、温泉地滞在を健康増進に結びつけることによって、国民の健康増進に寄与する。さら、温泉医療を全国的に啓蒙し、滞在サービスの向上や景観整備などハード・ソフト両面にわたり、観光型から滞在型保養地へ転換することによって、地域の活性化に貢献する。</p>	<p>① 老年期疾患（呼吸器疾患、消化器疾患、骨・関節疾患、生活習慣病など）を対象として、外来・入院患者を受け入れ、地域医療に貢献した。</p> <p>② 呼吸器疾患患者を受け入れ、温泉療法を実施し治療成果も向上した。</p> <p>③ 骨関節疾患を受け入れ、治療成果も向上した。</p> <p>④ 患者のニーズに合わせ、訪問診療を実施した。</p> <p>⑤ 三朝町、三朝温泉観光協会及び三朝温泉旅館組合との連携によって、宿泊者に対して温泉療法の体験および医療相談を行うという試み（現代湯治）を開始し、健康増進並びに地域活性化に貢献した。</p>
	達成度：	4    ③    2    1
評価の客観的指標・定義	事項	定義（抜粋）
	医療収入	病院収入額：評価年度の前年と評価年度
	診療経費	医療費率：評価年度の前年と評価年度
	科研費申請率、科研費採択率、採択金額	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額	
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</p> <p>平成22年度には、岡山大学病院卒後臨床研修における「地域医療」担当、原子力連携教育大学ネットワークの施設見学担当（教育）、三朝ラドン効果研究施設における動物実験継続（研究）、訪問診療・看護の継続（診療）、健康増進志向温泉滞在プラン（現代湯治）の実施（社会貢献）などの取り組みを行い、一定の成果を挙げている。教育・研究・診療・社会貢献の面において、平成21年度の成果を踏まえて、さらに発展させるという目標をある程度達成できたと考えている。しかし、発展の余地はまだあり、次年度は、業務の効率化を図ることによって、三朝医療センターの特長を生かした取り組みの規模拡大をする予定である。</p>		

【達成度】4：非常に優れている 3：良好である 2：概ね良好であるが改善の余地あり 1：不十分であり改善を要する

注）本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。